

美しい森林づくり

地域に根ざした森林環境教育の取り組みについて 米代東部森林管理署

米代東部森林管理署では、森林や林業について学びたい、親しみたいといった声や、それらの文化を伝えたいといった多様な要望に応えるため、中学校、小学校等を対象とした森林教育を行ったり、フィールドの提供等をしており、平成 28 年度に実施した取り組みの一例をご紹介します。

○「春の育林教室」の開催

北秋田市立鷹巣南小学校の育林教室は、統合した滝森小学校時代から継承されているもので、60 年以上にもおよぶ伝統があり、毎年、学校林を活用して「地域の人々が森林を守り育ててきた文化を学ぶ」ことを目的に、春の植樹体験に始まり、秋は植栽木の観察、冬は積雪下での生育観察が行われております。なお、平成 28 年度春の育林教室は、5 月 12 日（木）4 年生から 6 年生までの児童 34 名を対象に実施しました。



春の植樹体験



秋の植栽木観察



冬の生育観察

森林管理署職員から杉の名前の由来、杉が育つ地域、長生きする木「天然秋田杉」について、森林が果たす「緑のダム」「巨大なタンク」としての役割、植付・下刈・間伐等森林を育てるための作業サイクル、木材は循環可能な資源であることや木材が使われている場所等を説明する中で、もし森林に頼らず人工的にダムなどを作るとした場合の金額を話すと、児童からは「想像できない金額だ！森林はすごい」との声が聞かれました。また、木でできた建物の話では「大館樹海ドームみたいにあんな大きい建物が木でできているなんて信じられない」など驚きの声が聞かれました。

この育林教室をとおして、児童に「森林の大切さ」、「木のぬくもり」、「郷土樹種の認識」等、「森林・林業」が重要であることを伝えることができたと考えています。

○「職場体験学習」の開催

8 月 2 日（火）3 日（水）の二日にわたり大館市立田代中学校 3 年生の生徒 6 名を職場体験学習として受け入れ、国有林での仕事や林業という仕事について知ってもらえるようなプログラムを実施しました。

一日目は、国有林内の間伐実施箇所で、間伐の必要性や使用する機械を説明した後、チェーンソーによる伐採作業や高性能林業機械による集造材作業の現場を見学しました。その後、平滝自然休養林に移動し、コンパスやブルーメイス、輪尺を実際に使って測量と測樹を体験しました。

二日目は、森林事務所において一日目の外業で実際に生徒が計測した結果をパソコンに入力し、面積や材積の算出も体験してもらいました。

職場体験学習を終えて、後日、生徒からは「林業の現場や測量など、知らなかったことをたくさん学ぶことができた」、「職場のチームワークを感じた」といった感想が寄せられ、とくに普段見ることができない林業の現場はとても強く印象に残った様子でした。



間伐の現場見学



測量体験



測樹体験

また、生徒からは、二日間にわたる職場体験の様子を新聞にまとめて、中学校の文化祭で掲示するので、見ていただきたい旨の案内状もいただいたところです。

この体験学習では、森林管理署の仕事の一部を体験してもらうことにより、地域の仕事の一つである林業を知ってもらうきっかけになると同時に、古くから林業が栄えてきたこの地域にとってとても意義があるものになったと考えています。

以上、小学校、中学校を対象とした森林教室等の一部を紹介しましたが、当該校の校長及び担当教諭からは、来年度も同様の森林教室、職場体験学習を行って欲しいとの要望をいただいているところであり、今回紹介できなかった案件も含め、引き続き地域に根ざした森林環境教育に取り組み、「森林・林業」の重要性や地域でのつながりを伝えていきたいと考えています。